

## 千年王国スタディーガイド

大患難時代の聖徒たちが、なぜキリストの花嫁である教会や第一の復活にあずかる旧約の聖徒たちと同等の位を頂くのか疑問に思われるかもしれません。

マタイの福音書 20 章 1 節から 14 節でイエス様は、ぶどう園に雇われた人々に例えて語られました。午前 9 時、午後 12 時、3 時、5 時から雇われた人がそれぞれいますが、どの時間の人も 1 デナリの報酬が約束されています。

最後の 5 時に雇われた人は少ししか働いていないのに、他の雇われ人と同じ 1 デナリの報酬を頂きました。

### ★ マタイの福音書 20 章 10 節-14 節

最初の者たちがもらいに来て、もっと多くもらえるだろうと思ったが、彼らもやはりひとり一デナリずつであった。そこで、彼らはそれを受け取ると、主人に文句をつけて、言った。『この最後の連中は一時間しか働かなかったのに、あなたは私たちと同じにしました。私たちは一日中、労苦と焼けるような暑さを辛抱したのです。』しかし、彼はそのひとりに答えて言った。『友よ。私はあなたに何も不当なことはしていない。あなたは私と一デナリの約束をしたではありませんか。自分の分を取って帰りなさい。ただ私としては、この最後の人にも、あなたと同じだけ上げたいのです。』

13 節「私はあなたに何も不当なことはしていない。あなたは私と一デナリの約束をしたではありませんか。」

4 千年間、主に従ってきたユダヤ民族にとっては、メシアの花嫁が異邦人の教会であることは納得し難く、また、2 千年間、主に仕えていた教会は、大患難時代の聖徒たちが教会と同等の立場に置かれることはやはり納得し難く、苦い思いを持つことになるかも知れません。しかし、神様は彼ら一人ひとりを祝福したいお方です。誰にも不当なことはされません。

しかし、千年王国にそんなに多くの王たちが必要なのか、と疑問に思われるかもしれません。ヨハネの黙示録 19 章 15 節「この方の口からは諸国の民を打つために、鋭い剣が出ていた。この方は、鉄の杖をもって彼らを牧される。」

諸国の民は、不従順な性質を受け継いでいます。もし全員が従順であったならば、ここで鉄の杖は必要なかったでしょう。

千年王国では、王たちが管理しやすい単位の数で治めて、人々を導くものと考えられます。栄光の御体を頂いている人々が、世界を治めるのです。

千年王国の後には、完全なる世界である新天新地が設立されます。

どうして、ご再臨の直後に、まず千年王国があるのでしょうか。その答えは創世記にあります。

創世記 13 章 15 節「わたしは、あなたが見渡しているこの地全部を、**永久にあなたとあなたの子孫とに与えよう。**」

神様はこう言われ、アブラハムに永遠の約束をなさいました。

創世記 26 章 3 節「あなたはこの地に、滞在しなさい。わたしはあなたとともにいて、あなたを祝福しよう。それはわたしが、これらの国々をすべて、**あなたとあなたの子孫に与えるからだ。**こうしてわたしは、あなたの父アブラハムに誓った誓いを果たすのだ。」

アブラハムへの約束がイサクに引き継がれました。

創世記 28 章 13 節「……見よ。主が彼のかたわらに立っておられた。そして仰せられた。『わたしはあなたの父アブラハムの神、イサクの神、主である。わたしはあなたが横たわっているこの地を、**あなたとあなたの子孫とに与える。**』」

アブラハムとイサクへの約束が、ヤコブに引き継がれました。

これらに共通している言葉が「あなたとあなたの子孫とに与えよう」ということです。「あなた」と言われているのは、アブラハム・イサク・ヤコブへの個人的な指名ですが、彼らは約束の実現を見ることなく、亡くなりました。神様が約束を守られなかったのではありません。

マタイの福音書 22 章 32 節では、『わたしは、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあります。神は死んだ者の神ではありません。生きている者の神です」とイエス様が、復活を信じないサドカイ人たちに説明されました。

約束は今も生きており、復活は不可欠であるということです。天国には、アブラハムが見渡していた土地はありません。イサクが住んでいたネゲブの土地や、ヤコブが横たわっていたベテルの土地もありません。

この約束が果たされるためには、神の御国がこの世界の地上に到来しなければなりません。千年王国は、そのためにあるのです。千年王国を信じない神学がありますが、千年王国なしでは聖書が不完全に終わってしまいます。

永久に約束された地は、実際にアブラハム・イサク・ヤコブが住んでいた土地です。霊的な例えでは解決になりません。復活した彼らが、千年王国において、実在する約束の地を受け継ぎます。その時、イスラエルの民が再び集められます。

### ★ イザヤ書 11 章 6 節-9 節

狼は子羊とともに宿り、ひょうは子やぎとともに伏し、子牛、若獅子、肥えた家畜が共にいて、小さい子どもがこれを追っていく。雌牛と熊とは共に草をはみ、その子らは共に伏し、獅子も牛のようにわらを食う。乳飲み子はコブラの穴の上で戯れ、乳離れした子はまむしの子に手を伸べる。わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を加えず、そこなわない。主を知ることが、海をおおう水のように、地を満たすからである。

6 節「狼は子羊とともに宿り、ひょうは子やぎとともに伏し、……雌牛と熊とは共に草をほみ、乳飲み子はコブラの穴の上で戯れ」

神の御国では、動物の世界にも、真の平和が訪れます。

9 節「聖なる山のどこにおいても」

全員が主を求めて礼拝している所は、聖なる山であると考えられます。

9 節「主を知ることが、海をおおう水のように、地を満たすからである。」

聖なる山は、エルサレムだけではないと思われれます。

### ★ イザヤ書 11 章 10 節-12 節

その日、エッサイの根は、国々の民の旗として立ち、国々は彼を求め、彼のいこう所は栄光に輝く。その日、主は再び御手を伸ばし、ご自分の民の残りを買取られる。残っている者をアッシリヤ、エジプト、パテロス、クシュ、エラム、シヌアル、ハマテ、海の島々から買取られる。主は、国々のために旗を揚げ、イスラエルの散らされた者を取り集め、ユダの追い散らされた者を地の四隅から集められる。

10 節「その日」

「主を知ることが……地を満たす（9 節）」で、動物の世界にも真の平和が訪れた日のことです。

12 節「イスラエルの散らされた者を取り集め、ユダの追い散らされた者を地の四隅から集められる。」

イエス様は再び立ち上がり、地の四隅からイスラエルの民を集めます。一回目が、イスラエルの民が約束の地に約 140 か国から集められている今現在の時を指します。

イスラエルの民は、出エジプトをしたりバビロン捕囚から約束の地へ帰還したりしています。ただの一度も世界の四隅である全世界から集められたことはありません。近代イスラエルが初めてです

現在、アブラハムの子孫が世界中から集められていますが、預言によると、その全員が約束の地に戻る前にイエス様のご再臨があるとされています。

ご再臨後、再び主は立ち上がり、残っているイスラエルの民を地の四隅から呼び戻されます。このみことばから見ると、ご再臨がいつでも起こり得るほど用意が整っていると考えられます。この時、異邦人がイスラエルの民の帰還を手伝います

イザヤ書 49 章 22 節「神である主はこう仰せられる。『見よ。わたしは国々に向かって手を上げ、わたしの旗を国々の民に向かって掲げる。彼らは、あなたの息子たちをふところに抱いて来、あなたの娘たちは肩に負われて来る。』」

異邦人が彼らを背負い、抱き、肩に乗せて約束の地に連れてきます。

ホセア書 3 章 5 節「その後、イスラエル人は帰って来て、彼らの神、主と、彼らの王ダビデを尋ね求め、終わりの日に、おののきながら主とその恵みに来よう。」

帰還した彼らは、主イエス・キリストと彼らの王であるダビデを訪ね求めます。千年王国では、復活したダビデがイスラエルの王となります。

エゼキエル書 37 章 24 節「わたしのしもべダビデが彼らの王となり、彼ら全体のただひとりの牧者となる。彼らはわたしの定めに従って歩み、わたしのおきてを守り行う。」  
この預言が成就します。

◆MEMO◆



OMEGA MINISTRIES  
OMEGA BIBLE STUDY